



目印のひもに合わせて、均等に苗を植える児童

**大きくなあれ、私たちのお米**

■田植え/地頭方小

地頭方小学校の5年生28人が5月17日、学校近くの水田で地元の教育ボランティアグループ「末広会」の会員13人の指導の下、田植えをしました。同会は米作りを通して、子どもに自然を大切にすることを育んでもらおうと、平成12年に学校近くの休耕地を整備し、「田んぼの学校」を立ち上げ、児童は泥だらけになりながらも笑顔で、一束一束丁寧に苗を植えました。今後、稲刈りや脱穀など会員の手ほどきを受けながら、一連の稲作の作業を体験していきます。

**地域住民憩いの場に彩りを**

■地域で整備した避難地公園への植栽

新庄ボランティア友の会（鈴木菊次会長）は5月19日、同区が整備している避難地公園で、子どもたちや住民ら約80人が参加し、花を植えました。公園に花を植え目印にすることで、子どもたちが避難地として意識し、花を自ら植えたことで、より親しみを持ってもらうもの。花は、アジサイやクンシランなど3種類約80本。子どもたちは同会の会員や地域住民とともに丁寧に植栽しました。鈴木会長は、「子どもたちに避難地を理解してもらい、住民の憩いの場所にしたい」と話しました。



地域住民と一緒にアジサイを植える子ども

**看護の道へ決意新たに**

■静岡県中部看護専門学校戴帽式

県中部看護専門学校でナイチンゲールの誕生日（12日）前の5月10日、戴帽式が行われました。基礎学習を終え、これから病院で本格的な看護実習に臨む2年生の戴帽生40人に一人ずつ、純白のナースキャップが授与され、戴帽生はナイチンゲール像の炎を手元のろうそくに受けるキャンドルサービスを行いました。本市の中西晴香さん（川崎）は「入学したときの気持ちを忘れず、地域に貢献できる看護師になれるよう、これからも頑張っていきたい」と決意を語りました。



キャンドルサービスを行う中西さん(左)



笑顔で来場者と接する生徒

**私たちの自慢のお茶をどうぞ**

■「学園茶」販売/牧之原中

牧之原中学校3年生29人は5月18日、富士山静岡空港や東名高速道路下り線牧之原サービスエリアで、学校茶園で作った新茶を販売しました。新茶は5月1日に手摘みをした後、JAが協力して約32kgに製茶。茶詰めや包装作業は生徒が手伝い、50g入りの新茶450袋を用意。茶娘や茶息子に扮した生徒は、観光客に元気に声を掛け、学園茶をPRしました。今回は初めて、ターミナルビル2階の呈茶コーナーで呈茶を実施し、お茶の話を中心に来場者と触れ合いました。



石川県で開かれた世界農業遺産国際会議で認定(後列右端は田久副市長)

**もう一つの「世界遺産」が誕生**

■「静岡の茶草場農法」が世界農業遺産に認定

掛川市、菊川市、島田市、川根本町、牧之原市で構成する協議会が申請していた「静岡の茶草場農法」が世界農業遺産(登録数11地域、19箇所)に認定されました。茶草場農法とは、秋や冬に里山や茶園周辺のスキヤササなどを刈り取って有機肥料として茶畑に敷き、良質なお茶を生産するために行われてきた伝統的農法。審査関係者からは、希少な動植物の生態環境が保たれていることなどが高く評価されました。市内では、東萩間や勝間田などを中心に約22haが対象とされました。今後、協議会では環境に配慮した茶産地としてのブランド化や観光資源として集客につなげる取り組みを進めていきます。

**健やかな成長願い高々と**

■さがら風あげ大会

子どもの初節句を祝う「さがら風あげ大会」が5月4日、さがらサンビーチで開かれました。江戸時代から続く伝統行事に、市内外から23組の家族が参加。神事後、「相良風の会」の協力により、子どもの名前と家紋が描かれた縦1.3メートル、横1.17メートルの伝統の相良風が、雲ひとつない青空に次々と揚がりました。生後2カ月の理人くんと訪れた戸塚真也さん(汐見台)は、「優しく強く大きく成長してほしい」とわが子への思いを話してくれました。



子どもの名前と家紋入りの風と一緒に写真を撮る戸塚さん家族



トウキの生育状況を確認する農業生産法人薬善の河原崎社長

**薬草栽培で地域に活力を**

■農業生産法人薬善が「しずぎん起業家大賞」最優秀賞を受賞

農業生産法人薬善(菅ヶ谷)が3月、静岡銀行「しずぎん起業家大賞」で最優秀賞を受賞しました。河原崎勝弘社長は茶業の収入が低迷する中、「新しい農業を育て、地域をなんとかしたい」と、収穫時期がお茶と重ならず、需要が拡大している薬用植物に着目し、昨年10月に会社を設立しました。栽培初年度の今年は、約40戸の農家とともに6haの土地で、漢方薬原料のミシマサイコとトウキの栽培を始めました。河原崎社長は、「100haを目標に、日本一の産地を目指したい」と話しました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎230052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

